

# 箱根ジオパーク構想

平成23年3月

箱根ジオパーク推進連絡会

## 箱根ジオパーク構想目次

### 1. なぜ、箱根ジオパーク構想を策定するのか

- (1) ジオパークとは何か . . . . . 2
- (2) 箱根ジオパーク構想を策定する背景 . . . . . 2
- (3) 箱根ジオパーク構想策定までの歩み . . . . . 3
- (4) ジオパーク認定による効果 . . . . . 3

### 2. 箱根ジオパーク構想の考え方

- (1) 箱根ジオパークの考え方(コンセプト)～基本理念～ . . . . . 4
- (2) 箱根ジオパークの目指すもの . . . . . 4
- (3) 箱根ジオパークの特徴 . . . . . 5
- (4) ジオサイト候補地 . . . . . 8
- (5) 地質資源の活用 . . . . . 12

### 3. ジオパーク認定に向けた進め方

- (1) 認定までのスケジュール . . . . . 15
- (2) 箱根ジオパークの推進体制 . . . . . 16
- (3) 認定へ向けた重点項目 . . . . . 17
- (4) 認定後の考え方 . . . . . 18

(参考資料1)日本ジオパーク申請書作成手引き . . . . . 19

(参考資料2)日本ジオパーク委員会 評価シート . . . . . 20

## 1. なぜ、箱根ジオパーク構想を策定するのか

### (1) ジオパークとは何か

ジオパークは地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園です。ジオパークは、ユネスコの支援により 2004 年に設立された世界ジオパークネットワークにより、世界各国で推進されています。ジオパークは、以下のように定められています。

- 地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
- 公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。
- ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。
- 博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。
- それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。
- 世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。

### (2) 箱根ジオパーク構想を策定する背景

小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の 1 市 3 町の地域は、箱根火山及びその周辺地域の豊かな自然を背景とし、共通の歴史・文化を持っている地域である。

また、首都圏からのアクセス性に優れ、1 市 3 町合わせ毎年国内外から 3,000 万人以上の観光客が訪れる日本有数の国際観光地である。

日本地質百選に選定された「箱根火山」をジオパークの観点から、この地域の新たな観光資源として活かそうとするものである。

この地域の特徴を活かしながら、広域連携による地質資源の活用方策などについてまとめ、今後の地域振興の基本指針の一つとしてジオパーク化する構想が、この「箱根ジオパーク構想」である。

### (3) 箱根ジオパーク構想策定までの歩み

<b>平成 19 年 5 月 「日本の地質百選」認定</b> 日本の地質百選選定委員から日本の地質を代表する箇所として「箱根火山」が日本の地質百選に選定された。
<b>平成 19 年 12 月 日本ジオパーク連絡協議会の設立・参加</b> 設立総会へは 1 市 3 町の首長出席、役員選出により小田原市長が理事となる。
<b>平成 20 年 2 月 (仮称) 小田原・箱根ジオパーク推進連絡会の発足</b> ジオパーク認定を目指し検討を行うため、「(仮称) 小田原・箱根ジオパーク推進連絡会」(構成団体：西さがみ連邦共和国(1 市 3 町)及び神奈川県、会長：小田原市長)を発足する。
<b>平成 21 年 5 月 日本ジオパークネットワーク(JGN)への参加</b> 日本ジオパーク連絡協議会の発展的解散により JGN が設立される。準会員として参加、役員選出により理事となる。
<b>平成 22 年 4 月 箱根ジオパーク推進連絡会への名称等変更</b> 名称：(仮称)小田原箱根ジオパーク推進連絡会 → 箱根ジオパーク推進連絡会 会長：小田原市長 → 箱根町長
<b>平成 22 年 8 月 箱根ジオパーク推進連絡会(第 1 回)の開催</b> 箱根ジオパーク構想骨子及び箱根ジオパーク構想(日本ジオパーク認定まで)スケジュールを承認する。
<b>平成 22 年 11 月 箱根ジオパーク推進連絡会(第 2 回)の開催</b> 箱根ジオパーク構想(日本ジオパーク認定まで)スケジュール概要、平成 23 年度箱根ジオパーク推進協議会事業計画概要及び予算概要を承認する。
<b>平成 22 年 11 月 箱根ジオパーク講演会(第 1 回)の開催</b> 主催：箱根ジオパーク推進連絡会 内容：講演 1「ジオパークとは何か(尾池和夫氏)」、講演 2「箱根ジオパークの魅力(高橋正樹氏)」
<b>平成 22 年 12 月 箱根ジオパーク講演会(第 2 回)の開催</b> 主催：箱根ジオパーク推進連絡会 内容：講演「日本ジオパークの認定まで(渡辺真人氏)」

### (4) ジオパーク認定による効果

国内先進地である糸魚川ジオパーク、洞爺湖有珠山ジオパークに世界ジオパーク認定後の地域活性化の状況についてヒアリングしたところ、観光客数増など短期的な結果には結び付いていないようである。しかしながら、「地質」をテーマとした博物館は着実に入館者数が増加しているのは効果として重要である。

従って、この地域においても短期的な観光客増につながらないことが想定できる

が、ジオパークの認知度を上げつつ、観光の幅を広げることにより、質の違う客層やリーピーターを呼び込むための手段としては期待できる。

ex. 糸魚川ジオパーク（フォッサマグナミュージアム入館者）

平成 19 年度	40,683 人
平成 20 年度（日本ジオパーク認定）	46,411 人（前年度比 14.1%増）
平成 21 年度（世界ジオパーク認定）	59,591 人（ 〃 28.4%増）

ex. 洞爺湖有珠山ジオパーク（関連各種ミュージアム入館者）

平成 19 年度	337,885 人
平成 20 年度（日本ジオパーク認定）	601,977 人（前年度比 59.3%増）
平成 21 年度（世界ジオパーク認定）	604,050 人（ 〃 0.3%増）

## 2. 箱根ジオパーク構想の考え方

### （1）箱根ジオパークの考え方(コンセプト)～基本理念～

箱根火山及びその周辺地域の地質資源をはじめ、歴史的、文化的、生態学的資源を維持保全し、その価値を継続して高めていく。箱根火山を土台とした教育に資する活動やジオツーリズムの場として、国立公園、県立自然公園を中心とした区域であることを踏まえ、自然公園法による特別地域・特別保護地区の保護は勿論、自然環境の保全を前提とした環境整備を行うことにより、箱根火山の持つ魅力を再認識したうえで教育・観光の新たな切り口として地域活性化を図る。

### （2）箱根ジオパークの目指すもの

#### ・地域の総合的な学習の場の創出【教育】

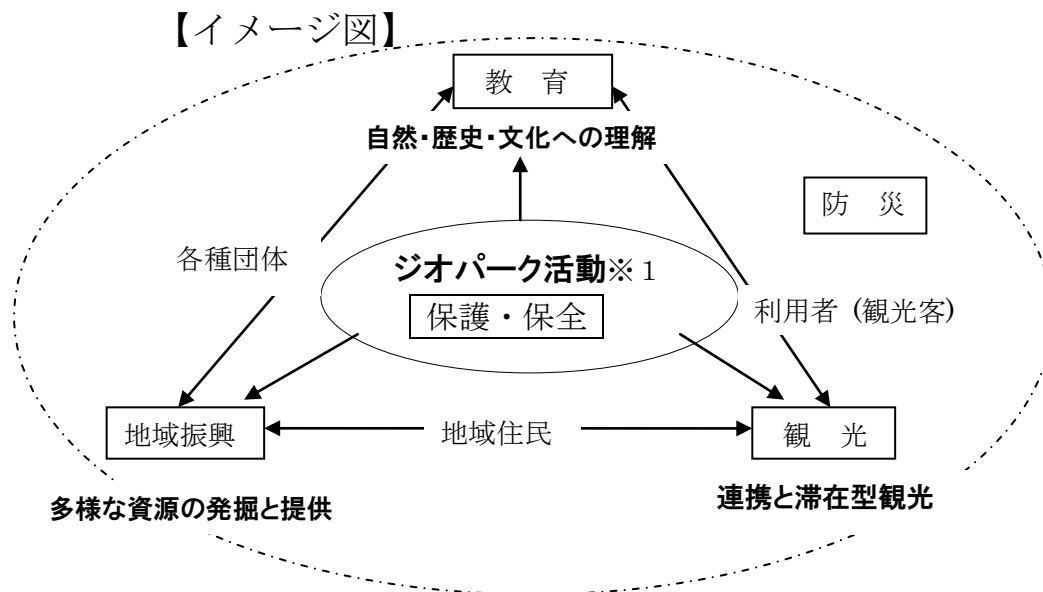
箱根ジオパークを通して、地質学等の学習ニーズに応える環境を整備することにより、地域の自然・歴史・文化についてもより理解が深まり、地域への愛着や自然保護、安全に暮らせる環境への関心を高める。

#### ・観光振興の推進【観光】

ジオパークという新たな広域連携の仕掛けで、ジオサイトの保全に配慮した魅力的なストーリーを展開し、自然・歴史・文化を含めた地域の再発見を促すとともに、領域内の地質資源なども巡る滞在型観光を視野に入れた観光産業の振興を図る。

#### ・住民参加型地域振興の推進【地域振興】

地質と歴史など学術分野や、行政域を超えた連携により、多様な興味や関心を持つ人々が満足する資源を発掘・提供し、地質や地形と関係のある特産品との連携、ロゴマークの作成・活用より、地域振興を図る。



※1 「大地の遺産」を適切に保全し、教育・普及に活かし、ジオツーリズムなどを通じて持続可能な地域経済の発展に貢献しようとする活動。

### (3) 箱根ジオパークの特徴

- ・名称

箱根ジオパーク

- ・領域

小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町

- ・テーマ

「北と南をつなぐ自然のみち 東と西をつなぐ歴史のみち」

- ・特徴

- ① 伊豆・小笠原弧が本州弧に衝突するプレート境界にあり、複雑な形成史を有する世界的にも有名な箱根火山が存在する

箱根火山はフィリピン海プレートの東縁に形成された伊豆・小笠原弧の北端部に位置している。箱根火山の活動は、太平洋プレートがフィリピン海プレートの下に沈み込んだことによって地下深くでできたマグマが、地表に現れたものである。故久野 久博士によって詳しく研究され、世界的にも有名になった。

- ② 箱根火山はさまざまな種類の溶岩や火山灰を噴出し、それらが特徴的な火山地形をつくりだし、「火山の博物館」となっている

なだらかな地形の裾野と急崖のカルデラをつくる外輪山、火山の中央部に並ぶ中央火口丘などは、多数の成層火山や単成火山、溶岩ドームからなる複合火山である。それぞれの火山から噴出した溶岩流や火山灰などは、独特の火山地形をつくりだした。真鶴半島も溶岩流でできている。それらをつくる岩石も、玄

武岩や安山岩、デイサイト、流紋岩と多様である。溶岩には、冷えて固まるときにできる柱状や板状の節理が発達することもある。石器の材料となった黒曜石もある。火山体を深く削って流れる早川、須雲川、新崎川、千歳川は、深山幽谷の溪谷をつくりだしている。

**③ 相模湾の海岸から箱根火山の最高峰まで、約 1,400mの高低差がある起伏に富んだ大地は、固有種を含む多様な生物が生息する豊かな自然を有する**

箱根火山が面する相模湾沿岸は、魚種も豊富で古くから漁業が盛んである。真鶴半島に岩場には、神奈川県天然記念物に指定されているイソギンチャクも生息している。一方、山間部には箱根に固有の植物や、箱根の名がつく動植物が生息し、豊かな自然環境に恵まれている。

**④ 火山の恵みである豊富な湯量と多様な泉質を誇る由緒ある温泉地域である**

この地域に所在する箱根温泉、湯河原温泉は、古くから知られ、人々は火山の恵み、いわゆるジオの恵みを享受してきた。特に箱根は江戸時代には、七つの自然湧出温泉を「箱根七湯」と呼ばれ、多くの方々を湯治客として受入れ、その結果箱根の文化を育んできた。現在では、掘削技術の進展により箱根二十湯と呼ばれる状況になってきた。箱根温泉は、温泉地ごとに泉質が異なり、これが魅力の一つとなっている。

また、箱根温泉は単にジオの恵みとして特徴をあげるだけでなく、温泉地学研究所の先端的な研究によると、カルデラ内で発生する地震の震源、メカニズム、地質構造、地殻変動が相互に関係しあうことが解明し始めており、同研究所の展示や解説を聞く事によって火山研究の最先端も垣間見ることができる。

湯河原温泉は、古く万葉集に詠まれた温泉であり、また、温暖な土地柄、明治から昭和の時代には、さまざまな文豪や歌人が訪れ、隠れ湯として親しまれてきた。

日清・日露戦争時には、陸軍の療養所が設置され、多くの負傷した兵士たちが傷を治療したことから、その効能が広く知られるようになった。

この地域の温泉からは、歴史や文化との深いつながりを感じることができる。

**⑤ 変化に富んだ地形や、豊富な地質資源が、古くから地域文化・産業を支えてきた地域である**

旧石器、縄文、弥生時代等古代の人々の営みから始まって、中世においては源平合戦や曾我物語の舞台となり、その後も戦国時代の北条氏による統治、江戸時代の城下町、城下町としての賑わいなどの歴史や小田原城跡、箱根関跡の国指定史跡をはじめとして、多くの史跡が残されている。これらの歴史や文化は本地域の地形・地質との密接な関わりの中で関わっているものである。

さらに、本地域は石材が非常に豊富であるが、これも箱根火山の恩恵である。

この地域の良質な石材は小田原城だけでなく江戸城の石垣にも使われ、また同時に高い石工技術を持つ石工も育んだ。この良質な石材と高い技術は真鶴町を中心

に小松石などに代表される地域の工芸品を生み出し、本地域における重要な産業の一つとして現在も地域経済を支えている。

#### ⑥ 神奈川県立生命の星・地球博物館と温泉地学研究所という学術的・科学的施設が設置されている

##### ・生命の星・地球博物館

平成7年3月に開館した神奈川県立の自然史博物館である。地球及び生命の営みと神奈川の自然に関する調査研究、資料収集、資料保管、展示、学習支援活動を行っている。それらの活動は、各分野の専門家であるが学芸員と生命の星・地球博物館友の会や博物館ボランティアとともに行われており、子どもから大人までさまざまな階層の人々に利用されている。

##### ・温泉地学研究所

都道府県立の研究機関としては大変ユニークかつ地域の特性に応じて設置された地学研究所である。当研究所は昭和36年10月に温泉研究所として、当初地域の温泉資源の保全と開発のために開設された。その後、環境政策や防災政策の実現のために調査・研究分野を広げながら、現在に至っている。

当研究所は当初から行っている温泉・地下水の研究のほか、箱根火山や県西部地震のメカニズムを探る地質構造の調査、研究及び地震火山活動の監視・予知研究を行っている。調査・研究成果の普及にも積極的に所内に環境学習・展示コーナーを設けるほか地震観測室の一般公開を行なっている。さらに、研究所の内外で研究員が講師となって地球科学の基礎知識から最先端の地球科学の研究成果を講演し、多くの方々に地球科学の面白さと社会生活における重要性を伝えている。

#### ⑦ その他の魅力

この地域は東京から100km圏内にあり、首都圏から気軽に来訪するための鉄道・バスなどの公共交通機関も発達している。地域内にはケーブルカー、ロープウェイ、遊覧船といった移動手段を楽しむ交通機関も充実している。

また、小田原城天守閣・歴史見聞館、小田原宿なりわい交流館・街かど博物館、箱根湿生花園、箱根関所資料館、箱根町郷土資料館、湯河原町立美術館、万葉公園足湯施設「独歩の湯」、真鶴町立遠藤貝類博物館、真鶴町立民俗資料館、真鶴魚座など多様な博物館、美術館、レジャー施設が充実している。



#### (4) ジオサイト候補地

ジオサイト(※1)候補地は、地質構造や地質現象が現れて学術的に重要な場所だけでなく、地形、植生、古代から現在に至る人間の歴史や産業などの点で重要な場所を考慮しながら選定します。

※1 ジオサイトとは「地質学的な見所・見学場所」をいう。

##### ・ ジオサイトの資源区分

NO	区分	摘要
①	露頭	洞窟、掘削法面、土壌断面、土質断面、トンネル
②	鉱物	岩石、堆積構造、地質構造、化石、変質、風化、浸食
③	地下水	湧水、滝、河川、温泉、噴気
④	地形	災害地形、変動地形、土木構造物
⑤	植生	生態系、自然地理、景観
⑥	遺跡	歴史文化、風土

#### 箱根ジオパークにおけるジオサイト候補地リスト

No.	ジオサイト名(仮称)	見どころ
<b>(箱根町)</b>		
1.	大涌谷③	箱根火山の中心、噴火による爆裂火口跡であり、噴気と硫化水素の匂いに火山の息吹を感じながら火山を観察できる散策路があり、晴れた日には富士山の全体を眺望できる絶好なロケーションである。 地熱や硫黄と鉄分の化学反応を利用した「黒タマゴ」がジオ関連の特産品として有名である。
2.	早雲山、大涌沢④	火山との共生について観察できるサイトである。噴気等の浸食により発生する温泉地すべり防止のため、砂防事業を行い、砂防堰堤、排気ボーリング、グランドアンカーなどの安全策が取られている。大涌沢はロープウェイによる上空からの観察可能であり、地熱で植生がなく荒涼としている山肌に温泉ボーリング施設や砂防施設が観察できる。
3.	神山と流れ山④	神山崩壊物が扇状の地形を形成した。崩れた山体の一部が流れ山(船見岩、大石、飯塚)として点在する。
4.	仙石原湿原②⑤	箱根カルデラ北西部に残るカルデラ床である。湿原には希少な植物の群落があり国の天然記念物及び特別保護地区指定により保護されている。箱根仙石原湿生花園には土石流により化石になった神代杉がある。神代杉は箱根細工の材料としても使われた

No. ジオサイト名(仮称)	見どころ
5. 芦ノ湖②④⑤	箱根火山のカルデラ湖。箱根恩賜公園には昭和5年の北伊豆地震で出来た断層があり、湖尻湖畔には神代杉の根株がいくつか観察できる。九頭龍伝説でも知られ、九頭龍を鎮めたと伝えられる万巻上人ゆかりの箱根神社の御手洗として、古くから湖水祭りが行われている。
6. 仙石原長尾峠①	箱根火山のカルデラの断面にあたる、溶岩と凝灰角礫岩の露頭が観察できる。溶岩がカルデラの内側に向かって流れていることから、箱根火山の新モデル誕生のきっかけになった露頭でもある。
7. 金時山①②	外輪山の最高峰で1,213mある。放射状岩脈が多数あり山頂への登山道では、溶岩と凝灰角礫岩が観察でき、削られにくい溶岩の部分は階段状になっている。金太郎伝説にある宿り岩、テマリ岩などが観察できる。
8. 大観山②⑤	大観山から、カルデラと中央火口丘が一望できる。
9. 須雲川②	須雲橋付近で、マグマが古い地層（およそ400万年前にできた早川凝灰角礫岩）に入りこんだ、岩脈の露頭が観察できる。
10. 玉簾の滝①③	前期中央火口丘の噴出物（上）と須雲川安山岩類（下）の境目から湧出する滝である。関東大震災の際飛煙の滝と分断された。
11. 元箱根石仏群①⑥	中世の箱根超えの道である「湯坂道」に沿った精進池周辺に見られる。鎌倉時代当時この辺りは「地獄」と恐れられ、地蔵信仰の広がりとともに、湯坂道に沿ってある二子山溶岩ドームの輝石安山岩の露頭を削った磨崖仏や、宝篋印塔など、地蔵ゆかりの石仏・石塔が多く建てられた。
12. 堂ヶ島（白糸の滝） ①②③	白糸の滝は早川凝灰角礫岩が露呈している。 夢想国師の閑居跡（山居山）を移した薬師堂がある。宮ノ下から早川河床までの厚い堆積物は、約4万年前の神山の山体崩壊堆積物である。
13. 蛇骨川溪谷②⑥	火山岩をくり抜いた太閤 <small>いわ</small> の石風呂と温泉に含まれる二酸化珪素成分（珪華）が析出した蛇骨石が産出された。
14. 箱根二十湯③	箱根火山から湧出する温泉、1日2万5千トンの湧出量は全国第5位を誇り、様々な泉質が楽しめる。

15.飛龍の滝①③	前期中央火口丘の溶岩がつくりだす、上段約 15m、下段約 25m の箱根では最大級の滝。畑宿から飛龍の滝に至る登山道では柱状節理も観察できる。
<b>(小田原市)</b>	
1. 早川石丁場跡②⑥	箱根外輪山の安山岩を江戸城築城の際、石垣用材として切り出した生産遺跡。石切り作業の過程が当時のままの状態に残されている。
2. 小田原城址公園①⑥	城址公園のトンネルでは、5 万年前の東京軽石が観察できる。東京軽石は箱根火山の噴出物で関東一帯に降り積もり小田原では 4m に達する。
3. 石垣山一夜城②⑥	秀吉が小田原合戦の際に、地形を利用して築城した石垣城の跡である。江戸時代の数度の大地震で石垣の大半が崩壊した。ここから見える酒匂平野と大磯丘陵、相模湾の眺望は、地形を一望でき、圧巻である。
4. 六本松跡⑤	曾我山の峠道で、俳人松尾芭蕉の句碑がある。箱根外輪山から中央火口丘まで火山地形を一望できる。
5. 片浦海岸①②	海岸沿いの崖では、箱根外輪山の灰色の溶岩と赤色の火山砕屑物からなる成層火山の様子を観察することができる。また、近世の採石の跡も見られる。
<b>(真鶴町)</b>	
1. 真鶴半島採石場①⑥	山側の本小松石や半島側の新小松石は、石材として鎌倉時代から有名で、石材業が発達した。名称は真鶴小松山から由来している。小松石は江戸城や小田原城、品川台場などの石材として石船により回漕され利用された。
2. 岩海岸②	外輪山の溶岩流、溶岩ドーム、スコリア丘火山の海食、板状節理、白礫溶岩グループが観察できる。
3. 三ツ石海岸②⑤	外輪山の溶岩流の一部。関東大震災による海岸隆起で相模湾では死滅したウメボシイソギンチャクが岩礁に群生している。
4. しとどの窟①⑥	溶岩海食による洞窟があり、源頼朝が石橋山の戦いに敗れた際、そこに隠れ難を逃れたといわれる。かつては高さ 2m、深さ 10m 以上の大きさがあった。
5. 魚付き林と漁礁②⑤	外輪山溶岩流に魚付き林と良好な天然漁礁がある。

No. ジオサイト名(仮称)	見どころ
<b>(湯河原町)</b>	
1. 幕山②	外輪山南東部の溶岩円頂丘で、柱状節理が発達する。 初春には、雄大な斜面に約 4,000 本もの紅梅・白梅が咲き乱れ、春の訪れを感じることができる。
2. 不動の滝①③	露頭(湯ヶ島層群)から流れる落差 15mの滝があり、ここで発見された湯河原沸石は地質学的に希少であり、日本の地名がついた唯一の沸石である。
3. 南郷山⑤	箱根火山外輪山南麓に位置する約 15 万年前の火山。山を構成している溶岩は、本小松石と同じ溶岩。山頂および山麓からは真鶴半島をはじめ伊豆諸島まで一望できる。山麓には源頼朝にゆかりのある自艦水がある。
4. 福浦カツラゴ海岸②⑤	起伏に富んだ安山岩溶岩の上に天然記念物のサンゴイソギンチャクの群生が見られる。
5. 湯河原温泉③	万葉集にも詠われた温泉であり、最近開発された温泉を除くと湯河原火山カルデラ内に湧き出た温泉である。

<参考>

- ・自然公園法(富士箱根伊豆国立公園)
- ・県立真鶴半島自然公園、県立奥湯河原自然公園
- ・国指定史跡：元箱根石仏石塔群、箱根関跡、箱根旧街道、小田原城址、石垣山
- ・県指定史跡：石橋山古戦場のうち与一塚及び文三堂、土肥相山巖窟、土肥一族の墓場
- ・天然記念物：早川のピランジュ、箱根仙石原湿原植物群落、小田原高等学校の樹叢、中津層群神沢層産出の脊椎動物化石、ハコネサンショウウオ、ウメボシイソギンチャクほか

## (5) 地質資源の活用

### ・地域の総合的な学習の場の創出【教育】

#### ①学校教育・生涯学習への反映

学校教育・生涯学習の場に、箱根火山形成史を始め箱根ジオパークを理解してもらおうとともに、ジオガイドの育成を意識した学習の機会を創設する。

##### <箱根火山の生い立ち>

箱根火山の生い立ちについては、1950年代に故久野 久博士が唱えた古期外輪山と新时期外輪山、中央火口丘群の形成という三重式火山のモデルが長く踏襲されてきた。その後、火山灰の研究や火山体の地形の研究により、久野モデルの修正が行われた。1990年代以降、岩石の化学組成や絶対年代測定等の新しいデータが次々と出されるようになり、成層火山群と単成火山群が複合的に活動して形成されたとする新形成モデルが打ち出された。時代とともに科学が進歩した結果といえる。

##### <富士箱根伊豆国立公園 箱根地域内における歩道利用ガイドラインの周知>

箱根の登山道やハイキングコースなどの歩道では、古くからの火山活動がもたらした、変化に富む地形・地質や温暖な気象条件のもとで育まれた豊かな自然を体感することができる。しかし、この自然は、私たちの歩き方しだいで、傷つき、形を変えてしまうことがある。

#### ②箱根火山との共生

##### <温泉地学研究所の研究>

研究所は箱根を中心に、神奈川県西部の地域に地震、地殻変動、噴気域の地温や火山ガスなどの観測網を展開しており、コンピューターにより24時間監視体制を整備し、急激な変化が発生した場合には、研究員が詳細な分析を行うほか、気象庁等関係機関と連携することになっている。

とりわけ、箱根は年間2,000万人の観光客が訪れる国際観光地であり、活火山の安全性の確保は重要な課題となっているが、その大役を研究所が担っており、国内にある同様の火山の中でも非常にしっかりと監視が行われている火山として知られている。ジオパークとしては非常に恵まれた環境に位置している。

##### <箱根火山噴火対策>

箱根山は現在でも噴気をあげる活火山であり、2009(平成21)年3月31日に噴火警戒レベルが導入された。県温泉地学研究所で監視されたデータに異常な活動が確認されると、箱根町と県、横浜地方気象台は連携して対応することが決まっている。

特に噴火活動の恐れのないレベル1を超える状況になった場合には、立ち入りの規制区域や交通の制限などの対策を事前に計画しているほか、日頃か

ら、民間の交通や観光関係団体その他の関係機関の参加による「箱根火山対策連絡会議」を常設し、情報交換等を行っている。

#### <大涌谷園地安全対策協議会とガス濃度自働警告システム>

また、噴火活動の恐れのない噴火警戒レベル1においても、時に火山ガス濃度が高くなることも予想されるため、安心して噴気地帯である大涌谷を見学していただくために、県や関係の民間機関の方々と「大涌谷園地安全対策協議会」を設置し、ガス濃度の自動監視による警報システムを運用するとともに、防災訓練などを行って、火山災害だけに限らず地震や風水害対策にも取り組んでいる。

#### <来訪者への安全対策>

この地域の1市3町はこれまでも、観光客に対する防災対策は重要な課題であり、防災計画上災害時の帰宅困難者対策の対象として位置づけ対策を検討してきた。また、実際に雪による交通障害等の際の観光客対策も経験している。避難所誘導標識の整備や各種防災マップなどの整備、旅館やホテルなど宿泊施設と自主防災組織との連携による訓練など様々な取り組みを行っている。

### ・観光振興の推進【観光】

#### ①魅力的なコース・メニューの検討

公共交通機関や既存のハイキングコースを活用しつつ、相模湾と箱根山といった海と山の観光地をつなげるコースや、歴史・文化と自然との関係を想起させる魅力あるジオコースづくりを設定する。

この地域の来訪する動機となる対象別ジオツアーリズムのメニューづくりが求められる。

	客層区分	概要
1	一般的な観光客層	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観的にインパクトの強い地質遺産を主として巡るルートづくり</li> <li>・歴史文化遺産と組み合わせ、食文化を重視</li> </ul>
2	学校教育での来訪層(小中高校生)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地質の特徴、植生、生物に関する知識を学び、体験できるルートづくり</li> <li>・修学旅行の受け入れを重視</li> </ul>
3	学術的に興味のある層	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、学会の地質関係者の巡検コースをベースとしたルートづくり</li> <li>・専門ガイド付き</li> </ul>

- ・その他

ジオサイトの安全柵設置や遊歩道の整備により安心・安全に歩いて回れる環境の整備が求められる。

交通機関の利用向上に努めることとともに、電動アシスト自転車、電気自動車などの各ジオサイト間をつなぐ環境への負荷が低い交通手段の提案を行う。

## ②インフォメーション機能の充実

### <ハード整備>

- ・説明版

箱根ジオパークのシンボルとなるロゴマークやサインは、全体イメージの統一を図るうえで重要である。サインを統一させることは、来訪者に対する情報提供となる一方で、地域住民にもジオパーク活動を浸透させる大きな要素となる。

### <ソフト整備>

- ・ガイド養成

地元ボランティアガイド団体向けジオガイド養成講座を開催する。  
ジオガイドが活躍できる状況を創設する。

- ・パンフレット、ガイドブック作成

訴求対象別の良質なパンフレット、ガイドブックを作成する。

- ・情報発信

ホームページの充実、PRビデオの作成、箱根ジオパーク写真展の開催など

## ・住民参加型地域振興の推進【地域振興】

### ①ジオに関連した特産品との連携

この地域の特産品のうち、特に食材については豊富である。食材は日常生活の中で最も「大地の恵み」を感じることができるジオ資源のため、食材に物語性（ルーツ）を持たせ情報発信することで、希少性・話題性を持たせ、地場商品の付加価値を高めるとともに郷土愛の醸成を図る。

### <基準の設定>

ジオ資源(特に箱根火山の恵み)を活用した名産品であること。

ex. ジオ資源である名産品（小松石、温泉、箱根水系の水等）

火山灰土（黒ボク土、赤土（関東ローム層））で栽培された農産物  
箱根火山、大磯丘陵の斜面を活かした農産物(柑橘類等)

火山溶岩の漁礁・魚つき林、川、湖の魚介類(鮎、カマス、鮎、公魚等)

箱根水系のミネラル分豊富な水を使った加工食品(小田原かまぼこ等)

### <PRのためのロゴマークの作成・活用>

箱根ジオパークの理解と普及のためロゴマークを作成、活用しPRを図るとともに、ジオパーク活動の財源の一助とする。

### ②ジオ食材の普及啓発

ジオ食材を活かした伝統料理は真鶴のまご茶漬けなどがあるが、住民参加型の地域振興（アイデア募集）により、料理のバリエーションを開発・提案していくことでジオ食材の普及啓発を図る。また、合わせて小松石焼ステーキなどジオ資源のアイデアも募集する。

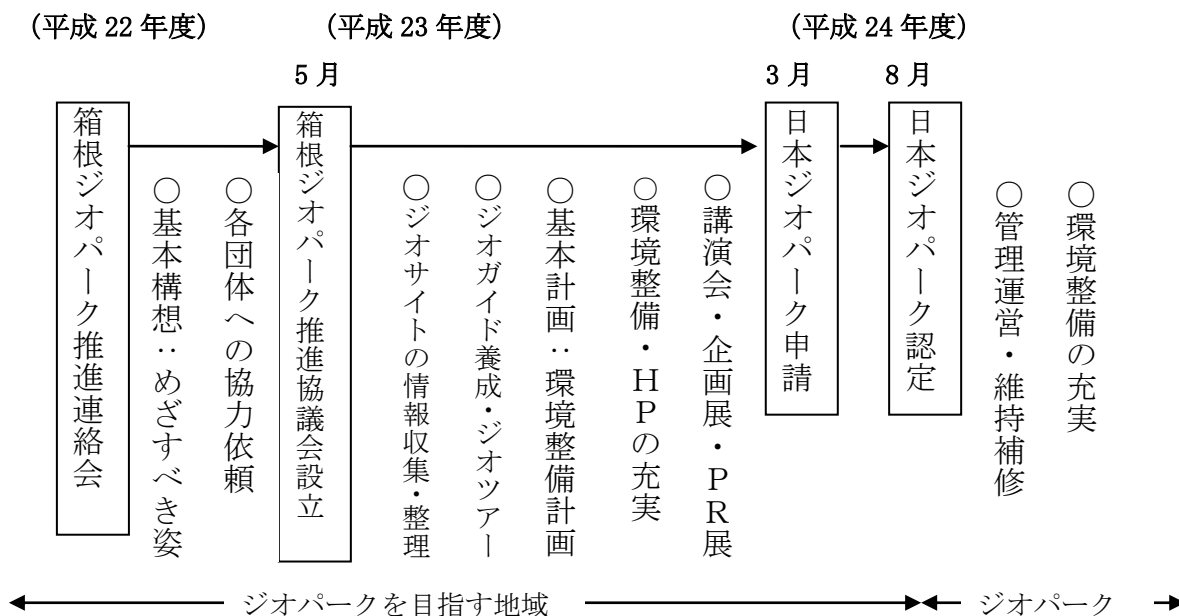
また、「大地の恵み」と題して、ジオ食材を使ったグルメやスイーツ、地層や山をかたどったスイーツや土産品によるPR、イベントの提案を行う。

## 3. ジオパーク認定に向けた進め方

### (1) 認定までのスケジュール

平成24年度、日本ジオパーク認定を目標とする。

(認定までのスケジュール)





## (2) 箱根ジオパークの推進体制

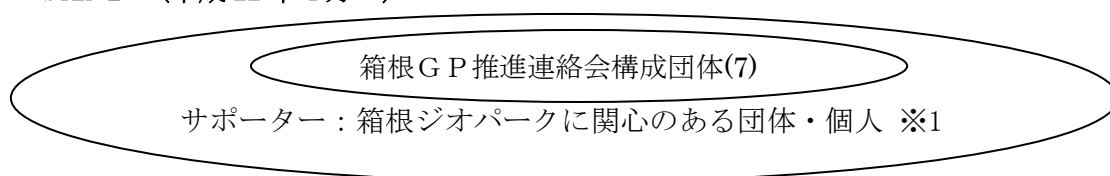
ジオパークの運営には、県・市町、関係機関や住民の連携による体制の確立が必要である。さらに、ジオパークの運営は安定性と継続性が不可欠であり、常設の責任者としての組織を設立する。

### 「箱根ジオパーク推進協議会」の設立（平成23年5月予定）

構成団体は、箱根ジオパーク推進連絡会構成7団体のほか、観光関連団体、民間事業者、県市町教育委員会、大学等研究機関などを想定している。「箱根ジオパーク推進連絡会」は発展的に解消する。

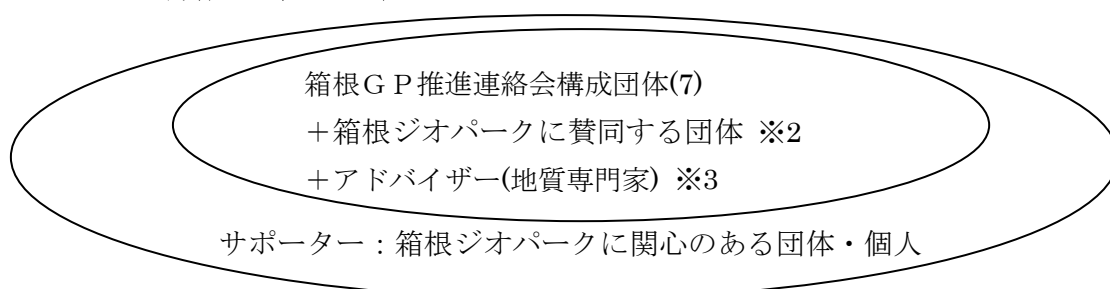
#### 【イメージ図】

##### STEP 1（平成22年4月～）



※1 箱根ジオパーク講演会(第2回)に出席された団体・個人

##### STEP 2（平成23年5月～）

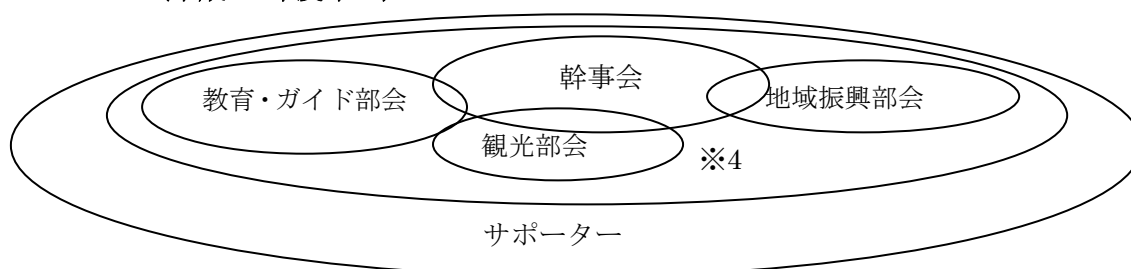


※2 箱根ジオパーク推進協議会の入会募集（届出制）に応じた団体

※3 生命の星・地球博物館、温泉地学研究所の学芸員を中心とした学術支援体制の強化を図る。

- ・ 中心円内の団体が箱根ジオパーク推進協議会の構成員となる。

##### STEP 3（平成23年度中～）



※4 各団体の得意分野を活かした部会を形成し、より機動的な組織とする。

### (3) 認定へ向けた重点項目

#### <ストーリーづくり・ブランド力の強化>

##### ・ストーリーづくり

箱根ジオパークのテーマ

「北と南をつなぐ自然のみち 東と西をつなぐ歴史のみち」

A 自然（箱根火山の成り立ちと、ジオを含む生態系の物語）

大地の鼓動・大地からの恵(噴煙、温泉、動植物)、  
箱根火山の活動史(地質背景)

B 文化・歴史（箱根火山に影響を受けた文化・歴史の物語）

「道」「石」「水」のキーワードで古代史、中世史、近代史を語る。

##### ・ブランド力強化

この地域には年間3,000万人の観光客が来訪する成熟した観光圏域である強みを、さらに箱根ジオパークという切り口で知的好奇心に応えられる体験・学習型観光、誘客につながる既存イベントを整理し情報発信していく。

#### <拠点施設・インフォメーション施設の配置>

箱根ジオパークの情報提供や展示をする施設の基本的な考え方を整理し、その機能に添った施設を配置する。

##### 拠点施設・インフォメーション施設(候補リスト)

区分	施設名
神奈川県	生命の星・地球博物館、温泉地学研究所
小田原市	郷土文化館、小田原城歴史見聞館
箱根町	(仮称)箱根火山学習センター、森のふれあい館、郷土資料館
真鶴町	遠藤貝類博物館、情報センター真鶴
湯河原町	町立図書館、湯河原美術館、郷土資料展示室
その他	箱根ビジターセンター

#### <ガイド養成>

この地域で活動している地元ボランティアガイド団体向けにジオガイド養成講座を開催し、ジオガイドの養成に努めるとともに、箱根ジオ検定の実施や持続可能な質の高いガイドシステムについて検討する。

#### (4) 認定後の考え方

##### <持続的な活動の展開>

日本ジオパーク認定申請時が活動のピークとなるような取り組みではなく、継続性が担保されるような活動が必要である。

- 国立公園、県立自然公園を中心とした区域であることから、自然環境の保護・保全と地域経済活性化の両立を図ることが必要である。地質資産採取等来訪者のマナー低下、新たなジオハイキングコース設定はしないといったジオツーリズムを基調とする。
- 箱根ジオパークが日本ジオパーク認定を受け、より多くの人々に箱根火山とその周辺地の魅力を情報発信することで、ジオパークの認知度を高める役割を担う。

(参考資料1)

## 日本ジオパーク申請書作成手引き

申請書はおおむね以下のような目次に従って図を含めて 30 ページ以内で作成し、添付資料を添えて電子ファイルで提出する。

### 1. 地域の確認

1-1 名称

1-2 位置

### 2. 申請地域の一般的情報（手短に）

2-1 地理的な背景、経済的状况

2-2 人口、施設、雇用

2-3 地形、気候、生物、生態系

2-4 文化遺産、遺跡など

### 3. ジオサイトとその活用

3-1 ジオパークのテーマと地形・地質概要

3-2～3-XX 適宜項目を立てて地域の地形・地質の記載、その他の自然・文化遺産、主要なジオサイトの解説を行う。ジオサイトについては、ジオツアーのコースを設定して、あるいはいくつかのストーリーを立てて、そのコースやストーリーに沿って解説する。世界的・国内的に見て科学的に重要なジオサイト、教育に有用なジオサイトについてはここで必ず説明する。ジオサイトにおける説明板の整備状況、ガイドマップ、ガイドブックや出版物、ガイド養成について、外国語対応の有無も含めて述べる。ジオパーク内で行われている教育活動、研究者・専門家による調査・研究活動、ジオサイトの保全状況、安全対策・防災対策についてもこの章で記載する。

### 4. 運営計画と組織

4-1 組織と運営

組織図、メンバー、参加団体、主要な団体の役割、決定メカニズムなどできるだけ具体的に書く。ジオパークの科学面をサポートする専門家の数とその専門分野と関与の程度、ジオツアーの拠点となる博物館・ビジターセンターについて記載する。

4-2 事業計画と予算

長期計画、中期計画、今後の整備と運営に必要な予算計画を記述する。

### 5. ジオツーリズムと持続的な発展に向けての戦略

5.1 ジオツアーの実績と今後の計画

5.2 地域経済の発展に向けて

市場調査・ジオツアーの企画・製品開発などの戦略、広報戦略を記述するとともに、ジオツーリズムに関連する企業との連携、地場産業の振興、ジオパーク関連商品の開発についての実績と今後の展望について記述する。

### 5.3 経済発展と自然環境の保全の両立に向けての戦略

## 6. 日本ジオパークに立候補する背景と理由

全体のまとめにあたる。

### 添付資料（枚数制限は特に設けない）

ジオサイトリスト（説明板の有無と外国語対応の有無、ガイドマップやガイドブックでの解説の有無、文化財指定の有無を明示）

ジオサイトマップ（正確な地図にジオサイトの位置をプロットしたもの）

ジオサイト写真（代表的なもの）

ジオサイトの解説のあるパンフレットやガイドマップの電子ファイル化したもの（代表的なものの一部を抜粋して。ジオ的要素が希薄な観光パンフレット・観光マップは不要）

ガイドブック、地域のジオに関する出版物、代表的な論文のリスト

ジオツアーの実績一覧表（ジオツアーの日時、主催者、参加人数、簡単な内容を一覧表にする）

### （参考資料2）

## 日本ジオパーク委員会 評価シート(公開版)

審査項目		配点
ジオサイトと保全		
	ジオパーク全体のテーマ	
	科学的にみて世界的・国内的に重要なサイトの質と数	
	教育に有用なサイトの質と数	
	地形多様性	
	地質多様性	
	現行過程(生きたジオ)の多様性	
	ジオサイトを束ねるストーリーないしサブテーマ	
	ジオが人間に与える恵みと災いを、歴史や人間の生活と関連付けて考えるジオサイト、ストーリーがあるか	
	地域内に十分な数のジオサイトがあるか	
	ジオパークの広さは適当か	
	自然環境の法的規制による保護、住民による保全の状況	
	ジオサイトの法的な保護、住民による保全の状況	
	化石・鉱物などの不正な採取の防止状況	
	ジオサイトの損傷や劣化を防ぐために何らかのメンテナンスや保護施設の設置などを行っているか	

<b>教育・研究活動</b>		
	ジオパーク内ないし近接地域のジオパークに協力する学術研究機関があるか、あるいはジオパークのテーマと関連した研究・調査をジオパーク内で定常的に行っている機関・団体があるか	
	地元の学校の生徒、地域の人々に向けての科学・環境・防災教育を行っているか	
	地元ガイドの養成プログラムがあるか	
	常勤職員として教育プログラム担当職員がいるか	
	ジオに関する出版物、ガイドブック、教材などが作成されているか	
<b>管理組織、運営体制</b>		
	運営組織・体制は明確か	
	運営組織への地域住民、住民によるNPOなどの各種団体の関与度	
	ジオパークのテーマに関連する科学者、専門家が積極的に関与しているか	
	地質・地形等の専門家が運営組織のメンバーとなっているか	
	長期的な基本計画	
	中期的（3-5年）な整備計画と予算計画	
	マーケティング戦略、広報戦略	
	Websiteの整備状況	
<b>地域の持続的な発展とジオツーリズム</b>		
	ジオツアーが実践されているか	
	ツアーの拠点となる博物館、ビジターセンター等の施設とその運営体制	
	ジオサイトの一般向けの説明（説明板、パンフレットなど）は十分か	
	ジオツーリズムを成立させるために必要な関連企業との連携があるか	
	ジオ関連商品などの地域の資源を生かした商品開発	
	基本計画、整備計画において、自然環境の保全を考慮しているか	
	公共交通機関でジオパークへ行けるか、徒歩・自転車で楽しめるジオツアールートがあるか	
<b>国際対応</b>		
	説明板、ガイドマップ、ガイドブック、パンフレットは多国語化しているか	
	外国人をガイドできるか	
<b>防災・安全</b>		
	ジオパーク内の住民、訪問者に対するリスクを分析して、必要に応じてハザードマップなどを作成することにより、それをわかりやすく伝えるとともに、必要な対策を講じているか	